

1980 広島生まれ

現在 ドイツ・ベルリンにて活動中

2004 広島市立大学大学院芸術学研究科博士前期課程修了

2006 ベルリン・バイセンゼー美術大学研究生

2007 広島市立大学大学院芸術学研究科博士後期課程満期退学

2009 広島市立大学芸術学部現代表現領域協力研究員 2009年度前期

2010 文化庁新進芸術家海外研修生1年間

[主な個展]

2017 「ikóynu」 Gallery t/東京

2016 Asian Art Show 2016 「Linguistic Atlas」 NON Berlin/ベルリン

2014 「Humming Dialog」 ベルリン日独センター/ベルリン

2013 「ハリバーコーラス」 アサヒアートスクエア/東京 *

2009 都市ギャラリープロジェクト「みどりの家といきものキャラバン」/広島 *

2006 「KURUMAGAAGAA AMEZAAZAA KIKIWASAWASA SEMIJIJIJIJIJI KAZEYUUBYUU HITOZAWAZAWA」 YebidenGallery/広島

[主なプロジェクト・グループ展]

2017 Sapporo Tenjinyama Art Studio Residence Program 2017 「s(k)now」/さっぽろ天神山アートスタジオ、札幌

2016 「kritischer Moment」/Galerie AG für zeitgenössische Kunst/バード ドベラン/ドイツ
「OPEN SPACES」/ボッホルト/ドイツ

2014 「するがのくにの芸術祭 富士の山ビエンナーレ」/静岡
「ゲンビどこでも企画公募 2014」/広島市現代美術館、広島

2013 「土湯アラフドアートアニュアル 2013」/土湯温泉町、福島
「Berlin Art Junction」 GIZ-Haus Berlin/ベルリン*

2012 「Cosmos」 Galerie 5th people project/ベルリン

2011 「Nippon Nacht vol.2」 Theaterhaus Berlin Mitte/ベルリン
「中之条ビエンナーレ 2011」/群馬県中之条町 *
「Durchgang」 48 Stunden Neukoelln/ベルリン

2010 「WE ARE THE ISLANDS」 Kunstraum Kreuzberg Bethanien/ベルリン
「almost the same, but not quite」 48 Stunden Neukoelln/ベルリン
「Last Temptation」 Co-Lab./コペンハーゲン/デンマーク

2008 「Hiroshima Art project 2008 旧中2 汽水域」 吉島/広島
「Show me the way!」 Galerie la-condition-japonaise/ベルリン

[主な文献&賞]

- 2014 第17回文化庁メディア芸術祭アート部門審査員会推薦作品にノミネート/日本
- 2013 福永敦展 ハリーバリーコーラスーまちなかの交響、墨田と浅草/アサヒ・アートスクエア/日本
Berlin Art Junction AUSSTELLUNG 7/GIZ-Repraesentanz Berlin/ドイツ
- 2009 Papercraft Design and Art with Paper/gestalten/ドイツ
- 2009 Tangible High Touch Visuals/gestalten/ドイツ

* 展覧会カタログ

[コンセプト]

作品参照 www.atsushifukunaga.com

Short concept 2016

私は他者の「参与」と「言葉」に関連したテーマに従事しています。それらの作品は、多くの場合、他人に創作することを委ねています。

近年の活動では、音を模倣した言葉の表現であるオノマトペを主体とし、その語源とも言われる「言葉を創造する」という誰にでも創作可能な表現を制作に携わる参加者に一任することで、彼ら自身の声や文字で「音」を創作するという自発的な潜在能力を引き出す事を試みてきました。

2015年より他者の言葉を引用/盗用することで、第三者の日常生活や慣習、または今日の社会情勢について考察した新たな展開を試みています。

2013 -

私の作品は音を模倣した言葉の表現であるオノマトペを主体とし、その語源とも言われる「言葉を創造する」という誰にでも創作可能な表現をテーマに、(1)サウンドインスタレーションや(2)コラージュ、また(3)パフォーマンスなどにより多角的な「音」の具体化を各言語話者と共同で試みています。その全てに共通する目的は、音を模倣するという事を制作に携わる参加者に一任することで、彼ら自身の言葉で「音」を創造するという自発的な潜在能力を引き出していくことです。また、視覚的に影響を与える情報を作品から省くことで鑑賞者に音への想像(創造)力を拡張させることです。そして、音を「文字」や「声」に置き換え、しかし言葉の意味に捕われず、文化や個人で異なる音感覚を相互に認識させていくことを意図しています。

(1)日常生活で耳にする様々なまちの音を聞き、それを多様なバックグラウンドを持つ一般の参加者の人々がオノマトペで模倣した「声」で表わすサウンドインスタレーションです。その声は実際の環境音とは異なり、彼らの心情によって地域の特徴を知覚的に捉えたサウンドスケープ※として、まちの風景を映し出しています。さらに多様な言語話者から異なる国や地域、その言語や文化の特徴を捉えたそれぞれの固有性またその差異を引き出していくことを試みています。

※カナダの作曲家マリー・シェーファー/Raymond Murray Schafer が日常生活や環境の中での音の役割・重要性を提唱した概念

(2) 音源となる挿絵からイメージする音を各言語話者が自発的に独創し、個人や各言語特有の音感覚によってデフォルメされたオノマトペを「文字」で書き出すことで音の可視（可読）化を試みるコラージュ作品です。音と言葉の創作を参加者に全て委ねることで、作者個人の創作範囲を越えた多種多様なオノマトペを創出していくことを目的としています。さらに鑑賞者にはそれらの音を「読む」という行為を促し、グローバルに広がる言葉の多様性を連想させることを提示しています。

(3) 舞台上の身体表現を覆い隠す暗闇の中で、ダンサーの気配と物音や身体から発する音の残響を交錯させ、鑑賞者に「見る」、「聞く」といった知覚体験を反転させることを試みたダンスパフォーマンスです。そして発声する「声」を身体表現のひとつの手段と考える新たな展開では、ダンサーの心情や感情を即興で言い表すことにより、心的な身体表現を鑑賞者に体験させることを企てています。